

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690700032		
法人名	社会福祉法人宇奈月福祉会		
事業所名	グループホームくぬぎの里		
所在地	富山県宇奈月町下立50番地-1		
自己評価作成日	平成30年2月16日	評価結果市町村受理日	平成30年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成30年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれ穏やかで家庭的な環境のもと、利用者個々のペースで自由に楽しく生活されています。この1年で全体的に利用者の身体機能が重度化してきている現状の中、家政作業や外出、行事参加の機会を日常的に設けながら、一人ひとりの持っている力を可能な限り発揮できる場面をつくり、役割や生きがい、楽しみを持っていきいきと暮らせるよう支援しております。
 地域密着型サービス事業所として地域住民や地元の関係者とのつながりを大切にし、様々な活動参加を通して地域との交流や連携に努めています。
 職員は、当法人の理念である『地域と共に あなたと共に 笑顔の花を咲かせます それが私たちの仕事です』の達成に向けて掲げられた5つの約束(感謝、誠実、協調、熱意、創造)に沿った行動基準の実践に日々取り組むことで、利用者、家族、地域住民、職員が一つとなって笑顔の花を咲かせることができるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◇法人理念をよりどころに、ケアの指針として『行動基準』を作成している。感謝、誠実、協調、熱意、創造の各項目について、職員の自主目標を作り共用空間に掲示し、職員間、利用者、ご家族とも共有するなど、理念が空洞化しないよう努めている。また、職員の自主的な取り組みを尊重し、嬉しかったこと、感動したことなどを日常から拾い出して、“ニヤリグッド”に記入し、利用者支援の質の向上や職員間のコミュニケーションを円滑に活用している。
 ◇運営推進会議への、民生委員、老人クラブ、自治振興会代表の参加をはじめ、地域や小中学校の運動会への参加、地域公民館行事や自主防災訓練への参加、神社の祭礼や、お寺の行事等々、地域との多様で日常的な協力体制を築きながら、地域の一員として確実に、かつ積極的に活動している。
 ◇外出の機会も多く、四季折々に、花見、地域神社の祭り、地域の畑で苗植え、地域や学校の運動会、七夕祭り、餅つき大会、自主防災訓練、美術館でのマジックショー等々、様々な場所へ出かけ、地域の人々と共に楽しむ姿がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「地域と共にあなたと共に笑顔の花を咲かせます それが私たちの仕事です」の達成に向け、事業所内の目に付く場所に掲げ全職員で共有している。また、理念を達成するための行動基準に沿った行動を日々実践し、毎月振り返り、利用者のケアにも反映させている。	法人理念を実践につなげていくため、『行動基準—感謝・誠実・協調・熱意・創造』を掲げ、その基準を日々の業務に活かして定着させていくために、個人目標を設定している。行動基準と個人目標は共用空間に掲示し、利用者・家族・職員が共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週2～3回近隣の店に買い物に出掛け、地域の方と関わる機会を設けている。地域住民や地域のボランティアの方々の協力を得て、趣味活動への参加や地域行事への参加の機会を設けている。地域の寺院の住職に来てもらい法話会を行ったり、地域の児童に来てもらい演奏会を行ったりしており、日常的に交流している。	小中学校の運動会、七夕まつり、祭礼、餅つき大会等、地域の行事に積極的に参加し、また事業所では、法話、小学生のギター演奏、法人納涼祭、避難訓練、沿道でのフルマラソン応援が行われる等、地域との日常的な相互交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会や運動会見学等で世代を越えた交流を行う中で、認知症高齢者と職員の関わる様子を見て頂く機会を作っている。地域行事に参加した際には、住民に利用者個々に声掛けの仕方や支援の度合いが違うことを伝え、共に実践することで、積極的な協力が得られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動実践報告や事故発生等を報告し、それらに関する情報交換を行い、意見を参考にサービス向上や地域との関わりに活かしていき、委員会全体で地域に開かれた事業所づくりに取り組んでいる。	地域包括、民生委員、老人クラブ、自治振興会、家族代表などの参加を得て隔月に開催。事業報告、活動内容、事故報告等について意見交換を行い、ボランティアの来訪が決まったり、防災訓練の協力体制が整備される等、会議を活かした取り組みがある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会において、事業所の現状を定期的に報告している。また、行政からも意見や情報を提供してもらい、研修等があれば必要に応じて参加している。市から定期的に介護相談員が訪れたり、年4回市へ広報誌を送付して、生活状況や活動内容を知ってもらっている。	運営推進会議内での事業報告や活動報告を地域包括職員は把握し、包括からの入所の問い合わせに応じる等、いつでも協力できる体制を整えている。事業所の広報誌『くぬぎの里』は、役所に配布し、年に4回活動状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関や併設施設の入りが自由にできるよう鍵はかけていない。職員は、身体拘束についての研修会に参加し、日々のケアが拘束に繋がらないかを確認している。また、ご家族にも拘束をしない自由な暮らしを支えている事業所であることについて日頃から話している。	身体拘束をしないケアの基本理念を学ぶため、外部研修参加職員の伝達研修を実施し、事業所内では、法人で統一された「接遇マニュアル」を根拠に、利用者に対して指示命令語を使わない、です・まず調の言葉かけをするなど、身体拘束につながる事のないケアを共有し、実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体に虐待防止を徹底させるために、高齢者虐待防止についての研修に参加した職員が報告会を行っている。事業所内での虐待事例はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の研修参加や勉強会の機会を持つことはできなかった。各制度については、必要に応じて活用できるようにサポートしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、契約内容の改定時には、事業者からの一方的な説明で終わらせることのないよう、ご家族に不安な点や疑問に思う点がないかをその都度確認し、それらについて迅速に答えることで理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護相談員が定期的に訪れ、利用者へ直接日々の思いについて聴き取り、その意見を管理者や職員も共有することで運営に反映させている。意見箱を玄関に設置しているが、来訪者は殆ど活用しないため、面会時や電話連絡時に要望や意見がないか等、確認している。	利用者とは、日常のケアを通して思いや願いをくみ取り、発した言葉を個別記録に記載している。家族等の意見については、意見箱の設置、面会時の声かけ、変化があった時の電話連絡等の機会を通して聞き取り、反映させるよう努めている。	ご家族などの率直で客観的な声を聴き取り、運営に反映できるよう、例えば無記名のアンケートを実施するなどの取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、同じ理念を共有する者同士の考えのもと、こまめに職員と言葉を交わし、意見や提案を聴いたり、体調について状況確認を行ったりしている。毎月、法人全事業所の責任者会議に出席し、事業所の状況報告や提案を行い、代表者から適切な助言をもらっている。職員は、毎月の会議や個別面談時に意見や提案する機会が設けられている。	毎月開催の職員会議で得られた意見や提案、日頃管理者が聞き取った職員の声は、責任者会議で検討され反映されている。また、年に一度、職員は法人共通の「行動評価表」に基づき、役職者と面談をする機会があり、個別の思いを表出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職員個々の勤務状況や心身の状況について気に掛けている姿勢を表し、顔を合わせた際は一人ひとりに声を掛けている。管理者とも、こまめに職員の状況について意見交換しており、全職員がやりがいを持って、いきいきと働けるよう、職場環境の配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者との協議や職員との意見を交わす中で、職員個々の関心や力量、今後の成長につながると思われる研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所との交流は、双方の事情から中断しているが、電話等での意見交換は定期的に行っている。県GH協から発信される研修等の情報がなく、あまり参加できなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には必ず事前調査に伺い、本人、家族、ケアマネやその他関係者に、生活歴や趣味、長年の習慣等の焦点情報を収集し、できるだけ多くの情報を記入している。職員はその調査書の情報を共有し、本人、ご家族が安心してサービス開始ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時や契約時には、ご家族の不安や要望、利用直前の複雑な心境を話すことのできる十分な時間と空間の確保に努めている。また事業所を見学する機会も設けて、ありのままの様子を見てもらうことで、新しい暮らしに対する不安が少しでも取り除くことができるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査時に知り得た本人及び家族の思いや要望と、ケアマネ等関係者からの情報を擦り合わせ、現時点でどんな支援が必要か、今最適なサービスは何かをきちんと捉え、他により適切と思われるサービスがあれば、勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全体的にADL低下が顕著となっている中ではあるが、味噌汁づくりや盛り付け、配膳、洗濯物たみ、趣味活動や各種行事参加を共に楽しむ関係を築いている。良いことも悪いことも、あらゆる思いを共有しながら、暮らしのパートナーとして日常生活を支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の暮らしを支えているのは職員だけではなく、ご家族と一緒にという思いを共有し、長年築いてきた本人とご家族の絆を阻むことのないよう、職員は常に裏方に徹する姿勢で状況報告や相談を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人、地域の方々の協力を得ながら、馴染みの人に会ったり馴染みの場所に行ったりし、自宅にいる時の生活に近い関わりや活動が続けられるよう支援している。	地域の祭りや行事、小中学校運動会への参加などを通して、馴染み深い場所や景色、人との交流を継続できるよう支援している。通っていた美容室へ出かけられなくなったら、事業所に来てもらう等の配慮もあり、利用者が望むつながりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活のあらゆる場面において、その場、その時に最適なパートナーが誰であるかを日頃から把握しておき、関わる場面を作ったり、一人の時間・少人数で過ごす時間・大勢で過ごす時間を設けたりし、孤立することのないよう安らぎのある暮らしを提供している。日中はできるだけ共有スペースで調理やティータイム、趣味活動、軽作業を展開し、利用者同士の関わりや助け合いが自然に生まれるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、本人のその後の暮らしの相談に応じたり、様子を尋ねたりしている。また、本人の次の暮らしの場で関わる方々には、本人およびご家族の戸惑いや不安を最小限にするために、電話や書面を通して情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしで、一人ひとりの発した言葉や行動などから思いや願いを把握し、個別日誌に詳しく記入し、職員間で共有している。それが困難である利用者についても表情等から読み取り、本人本位の姿勢で職員同士で検討している。	日々の個別記録には、利用者が発した言葉、つぶやき、職員が引き出した声をそのまま記録し、一人ひとりの貴重な思いや意向を把握するための情報として共有している。困難な場合には、元気だった時のことを推測するなど、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートを抜粋して活用し、これまでの暮らしぶりや馴染みの人や場所、好みなどを把握し共有している。本人だけでなく、家族、関わってきた方々にも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活表を職員デスクに設置しており、職員はこまめにかつ自由に記入して、利用者の生活を総合的に把握し、共有できるようにしている。個別日誌には時系列に沿って一人ひとりの過ごし方や心身の状況、活動内容等の様子を詳細に記載している。重度化している利用者が増えており、食事・水分摂取量の記載徹底に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアを通じて、毎月の会議で出された課題や提案について話し合ったことを、介護計画に盛り込んでいる。また見直しも毎月の会議で行っており、シートの「先月の振り返り」欄を活用して課題を放置することがないように、早い段階で解決に取り組んでいる。本人がより快適に生活できるよう、どう支えたら良いかを家族や主治医と話し合っている。	日々の個別記録から情報を収集し、課題や見直し、新たな目標などについて、毎月のカンファレンスで話し合い、介護計画の作成をしている。計画の見直しは、3カ月に一度行い、利用者の心身の状態の変化時には随時見直し、結果については家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌には本人の状況を記録するだけでなく、どのような場面に接し、どう捉えどのように関わり、その結果、どう変化したかを詳しく記載することを徹底している。医務的な事項や、普段とは違った言動、持っている力が発揮できた場面等は、一目で分かるよ、色分けする等して記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、特に家族の状況や緊急の度合いによって、ヘアカット等の外出支援や受診等、事業所が出来る範囲で最大限の対応ができるよう柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭事を見学したり、公民館や保育園、小中学校の行事を見学したりする際には、地域の場所や人の力を借りながら暮らしを楽しめるよう積極的に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は全利用者が、協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。日頃から昼夜を問わずこまめに状況報告や相談を行い、速やかに指示や助言をもらっており、日頃から良い関係を築いている。	入所契約時に、かかりつけ医について納得のいく選択をしてもらっている。事業所の協力医は、週2回往診があり、24時間事業所からの医療的な相談に応じる等、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職員の配置はないため、かかりつけ医の医師や看護師に報告・相談し、アドバイスしてもらいながら、受診のための支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員も共に病院へ向かい、速やかに医療関係者へ本人の暮らしの様子やケアに関する情報提供を行っている。入院中は、直接様子を見に行きながら本人の状況について担当医師や看護師と情報交換を行い、早期退院に向けての働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期のあり方について利用者・家族に説明し、理解を得ている。利用者の心身の状態に応じて、段階を追って家族やかかりつけ医と十分な話し合いを行っていき、状態によって事業所の対応できる力が変化していくことを説明しながら、重度化した場合の方向性について思いを共有することに努めている。	入所契約時に、看取りやターミナルの時期になった場合の対応、事業所としてできること、できないことについて説明をしている。実際に重度化している利用者の場合、家族、かかりつけ医と十分な話し合いを持ち、個々の状況に応じて、入院、施設変更など、利用者及び家族の納得が得られるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備えて冷静且つ的確に対応ができるよう、12月に普通救命講習を行っている。また、急変時のマニュアルを即座に活用できるよう、職員デスクに貼り出している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	年2回の法人主体の消防訓練(夜間想定)は、地域住民代表の防災協会の会長の参加と併せて、運営推進委員からの提案により、委員や家族代表の現場視察のもとで訓練を実施し、後日意見を頂いている。また、地域の自主防災訓練にも参加し、住民と一体になって防災活動に取り組んでいる。	避難訓練は年2回、①夜間の火災②地震を想定した火災について地域住民、運営推進会議委員、家族代表が参加し実施している。また水害に関しては、地域の自主防災訓練に利用者とともに参加するなど、地域との連携体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度の事業目標として、一人ひとりの人格を尊重する姿勢を徹底している。利用者を姓で呼びかけることや指示・命令・否定的な言動などの言葉掛けや接遇をしない取り組み、職員間で注意し合いながら個別の尊重を大切にしたい支援に努めている。トイレや脱衣室前には衝立を設置したり、記録物等の個人情報の管理を徹底したりするなどプライバシーの確保に努めている。	理念に基づく「行動基準」の項目の一つに、～敬意と真心を持ってご利用者に向き合います～があり、です・まず調で話す、下の名前やちゃん付で呼ばない等、具体的で実効性のある指針として職員会議などで共有を図り、実践に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活する中で、どんな些細なことでも自己選択、自己決定する場面を意図的に作り、一人ひとりの思いや希望が表しやすい環境を作っている。また本人の視線や動作、声のトーンから思いを汲み取り、意思表示が十分できない利用者に対しても、その思いに近付けるよう努めている。それらを記録し、情報共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が主体であることを前提に、職員側の都合や決まりを優先しないよう、一人ひとりの暮らしのペースに寄り添って、本人の思いや希望を尊重する支援に努めている。定期的に業務内容を見直してムダ・ムラ・ムリをなくし、利用者の快適な生活を最優先できるように、改善に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	重度化している利用者に対しても、本人の好みや習慣として行ってきたことを大切に、身だしなみやおしゃれを楽しめるよう工夫している。家族と協力しながら、馴染みの理・美容院へ出掛けている。出掛けることができない場合には理・美容院に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全体的に重度化している利用者が増え、献立・食材は業者委託になっている。中でも、一部の利用者と職員で食事の準備や片付けを行っており、利用者の持っている力を発揮できるような場面を作っている。利用者の約半数に食事介助が必要であるが、楽しい雰囲気となるよう努めている。誕生日には手作りおやつで祝ったり、外食したりなど、楽しみごとを設けることに努めている。	重度化に伴い、ミキサー食の提供も必至になっているが、みそ汁とごはん、おやつ作りは利用者の力を借りたり、できる人が協力して準備をしている。干し柿、梅干し、お釈迦団子づくりをはじめ、天候のよい季節には青空会食(外での昼食)を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材宅配業者から献立、分量、栄養価、カロリー等の一覧表を提供してもらい活用している。一人ひとりの食習慣や好みを把握し、体調や活動量、食事時間、食事形態、食器の工夫等、柔軟に対応している。また食事摂取量が普段と比べて著しく変化している際には、個別日誌の食事量、水分量記入欄に記載し、状態把握、情報共有し今後のケアに役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔を守り、いつまでも食べる楽しみが持てるよう、一人ひとりに応じたブラッシングの用具や方法で口腔ケアの声掛けや支援を、毎食後行っている。義歯使用者は就寝前に義歯を外してもらい、手入れや消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレでの座位排便、座位排便ができるよう取り組んでいる。24時間生活表から個々の排泄パターンを把握し、さらに集中的に把握する場合にはセンター方式シートを用いて、そこから得られた情報をもとに個々に合った支援を行っている。	接遇マニュアルにある、気をつけたい動作と言葉を基本に“いつ、どんな場面でも相手に不快感を与えない丁寧な言葉遣い”で、排泄時の対応を行い、24hシートの記録に基づき、個々のペースや排泄の状況に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に乳製品を取り入れ、緩下剤をできるだけ使用しないよう工夫している。また様々な飲み物を常時取り揃え、一人ひとりの気分や好みに合わせて提供し、水分摂取量のアップに努めている。個別の例としては数名が家族と相談し、便秘予防のための飲料を家族が購入し、職員で提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員側の都合で曜日や時間帯を決めず、一人ひとりの好きな時間や心身の状態が良好なタイミングを見計らい、入浴を楽しんでもらっている。現在夜間入浴はしていない。家族等からいただいた季節の花や柚子、お茶、入浴剤でよりリラックスした時間が過ごせるよう工夫している。必要な方には入浴補助具を使用することで、湯舟にも安全に入ってもらっている。併設の小規模多機能のリフト浴の使用も可能である。	いつでも入浴できる体制を整え、一人週3回を基本としながらも、希望にそって入ることができる。また、立位が取れない利用者は、併設施設(小規模多機能)のリフト浴を利用しているなど、個々の状態に合わせた入浴を楽しむことを支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの活動状況や生活習慣に応じて、作業や外出等で日中の活動を高めるよう支援し、適度な休息や午睡の時間も設けている。また、夕刻からは生活音を徐々に小さくし、照明の明るさや職員の声のトーンも下げて、穏やかな一日の終わりにつなげる工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の目的や副作用、用法、用量等を薬情から把握し、職員側で薬の保管やセットを行っている。個々の状態に合わせて服薬の支援方法を工夫している。症状の変化について観察と記録を行い、主治医に情報提供して処方内容の調整をこまめに行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのこれまでの生活や役割、楽しんできたこと、好きなことについて本人や家族から情報をもらい、それをもとに一人ひとりが役割や楽しみを持って過ごせるような場面を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその時の思いや希望に沿って、事業所内外の散歩、慰問や祭り、買い物や社会見学等に出席し、事業所の中だけで過ごさないよう戸外へ出る機会を作っている。自宅への外出や地区の祭事への外出を家族と協力して行い、地区住民や馴染みの方たちとのつながりが断たれないよう支援している。特に地域行事への参加が定着化してきたことで、地区住民の理解と協力も増している。	年間行事計画で予定している季節ごとの外出のほか、地域神社の祭り、地域の畑でのさつま芋の苗植え、地域や学校の運動会、隣町の七夕祭り、地域の餅つき大会、自主防災訓練参加、美術館でのマジックショー等々、様々な場所へ日常的に出かけ、利用者の笑顔を引き出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の利用者が手元に小銭程度持っており、歯磨き粉やドリンク等のちょっとした買い物で使っており、お金が生活に欠かせない大切な物であることを職員も理解し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から小包が届いたり、家族の声が聴きなくなった時など、本人の訴えや希望に応じて電話でのやり取りを支援している。また、なかなか訪れることのできない遠方の家族には事業所だよりや写真と一緒に日々の様子を伝えたり、年賀状をやり取りする取り組みを行ったりしている。家族等受け取る側の負担がないよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの場所からも庭が眺められる構造となっており、調理や掃除の音、テレビやラジオの声、会話等の自然な音を大切に、さりげなく季節の花を飾ったり、プランターに季節の野菜を栽培したりして季節感を採り入れている。また、中庭に干した洗濯物や調理の湯気や匂いなどで生活感を出し、居心地よい暮らしができるよう工夫している。	リビングは、白い枠どりの大きな二重窓越しに、中庭が見渡せ、室温・湿度が適切に管理されている。壁面には、習字作品をはじめ、法人の行動基準や職員の個人目標が掲示されている。周り廊下の途中には、ソファセットのある一角があり、一人になりたい時や、家族の来訪時などに活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下沿いの談話コーナーやリビングには各種ソファを配置している。また風呂場の出入り口近くにはソファベッドを置き、横になって気軽に休めるようにもしている。廊下の途中や玄関にもベンチを置いて、気の合う者同士が会話したり外の風景を眺めたりできるような環境を作り、自由な時間が過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と話し合っ、使い慣れた家具や寝具、好みの洋服等を自由に持ち込んでいただき、自宅での環境にできる限り近い生活空間を作り、居心地よく暮らせるよう工夫している。また、職員の一方面的な思いで居室を作り上げてしまわないよう心掛けている。	居室は全室フローリングでバリアフリーになっており、洗面台、トイレ、エアコン、ベッドが備え付けられている。利用者は馴染みのタンスや整理ボックス、ソファなどを持ち込み、壁面には家族の写真などを飾るなど、自由なレイアウトを楽しみ、居心地よく暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の場所が職員の指示なしでも分かるように表示したり、利用者と職員と一緒に食事づくりができる作業台を活用したり等、一人ひとりのできることやわかることが自然と引き出せるような環境を作っており、自発的に意欲を持って動き出せる暮らしを支援している。安全な環境を作るために、ヒヤリハット帳を活用している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームくぬぎの里

作成日: 平成 30年 3月 28日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	玄関に設置してある意見箱の活用が消極的である。また面会時や電話等の機会を通して、ご家族の意見、要望を聴き取りしているが、個別の内容であることが殆どであるため、直接的に事業所の運営に活かせるまでには至っていない。	ご家族の率直で客観的な意見を把握し、その意見を運営に反映させる。	無記名アンケートの実施。(アンケートの質問内容については、職員会議にて協議する。)	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。